

日本YWCAの使命(ミッション) イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する 世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題 平和を実現する人々には幸いである—マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015 (1) 非核・非暴力による平和を構築する ... (2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 10

OCT. 2007

発行所 日本キリスト教女子青年会 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8 Tel. 03-3264-0661 E-mail. office-japan@ywca.or.jp 編集発行人 石井摩耶子 振替 00170-7-23723 (毎月1日発行) 定価1部 150円 年間購読料2,200円(送料込) www.ywca.or.jp

YWCA非暴力週間

YWCA Week Without Violence 10月14日～20日

想像してみてください 7日間 168時間 10,080分間 暴力なしの世界を!

毎年10月第3週(非暴力週間)は、暴力をなくすために世界中のYWCAでいっせいに実施されるキャンペーンです。この期間中、世界各地のYWCAが、地域社会に向けてさまざまな方法で平和のメッセージを発信します。

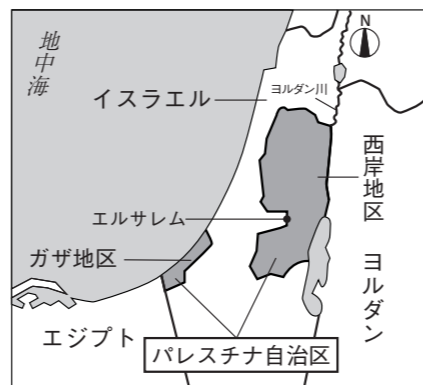
私たちはなぜパレスチナに関わるのか?

特集 Against the 暴力

世界YWCAは一貫して、イスラエルのパレスチナに対する軍事的占領は国際法違反として、パレスチナにおける正義ある平和を求めています。今年7月に開かれた世界総会でも、中東の女性と子どもたちの尊厳と安全を保障することが決議されました。日本YWCAは、1991年よりパレスチナ訪問や、パレスチナYWCAの職業訓練校の支援、保育所での栄養指導などの協力にあたってきました。現地の情勢が厳しさを増す現在、私たちができることをもう一度いっしょに考えてみたいと思います。

私は長年、次のように思い込んでいたのです。「ユダヤ人がパレスチナの地にイエス・キリストを再建することはユダヤ人の長年の悲願であり、2000年かけて起こった奇跡のようなものだ」と。私にとっては「アンネの日記」が子ども時代の「栄光への脱出」が高校のときの

私が初めて出会ったパレスチナ人は、1997年に日本YWCAの全国総会のゲストとして来日した、当時のパレスチナYWCA会長のリマ・タラジさんでした。東京YWCA武蔵野センターにもいらしていただき、お話を伺いました。リマ・タラジさんはとてもゆつたりした穏やかな方で、ひとつひとつ話がパレスチナ問題になると、「パレスチナ人の中で、イスラエルに殺された、傷つけられた者のいない一族はない。イスラエルによって一度も家を追われたことのないパレスチナ人はいない」と激しいイスラエル非難のない、何だか大変なことが続いているらしいとは思っても、よく分かっているまいやん。



オリーブの木キャンペーン

オリーブの木はパレスチナの人々の暮らしに深く根付いています。しかしイスラエルによるパレスチナの占領が始まって以来、オリーブの収穫は厳しく制限され、多くの農民が自分の畑に近づくこともできません。近年ではオリーブ畑が、分離壁やイスラエル人入植地の建設のため破壊されています。

パレスチナYWCAは東エルサレムYMCAと共に、オリーブを根こそぎにされた土地に5万本のオリーブの木を植える「オリーブの木キャンペーン」を行っています。日本YWCAは、パレスチナの人々を勇気づけ、連帯し平和を創りだすために、このプロジェクトを支援しています。ぜひご協力下さい。

3000円でオリーブの木1本を贈ることができます。〈振込先(郵便振替)〉日本キリスト教女子青年会 口座番号: 00170-7-23723 *通信欄に「オリーブの木キャンペーン」と記載して下さい。*パレスチナYWCAによる証明書発行のため、振替用紙にお名前前のふりがなまたはローマ字表記を必ずご記入下さい。

ユダヤ人問題とイスラエルとの出会いでした。そしてそこにはユダヤ人が国をつくる権利があると思いがこんでいたから、パレスチナ人はやっとならば奪ったユダヤ人のイスラエル建国を妨害しているテロ集団と思いが、イスラエルは当然の自衛の権利を行使していると思いがこんでしまっただけだと思いが。 2度目の聖地旅行のときでさえ、「私たちはイエス・キリストの未裔です」と胸を張って話をする生きたパレスチナ人クリスチャンがそこにいることに驚きもせず、過去のイエスの御跡をたどって、古い教会や史跡を巡るだけで帰ってきてしまっただけだと思いが。 2004年には日本聖公会東京教区の植田主教とともにパレスチナのエルサレム教区を訪問し、その後も継続して交流を続けています。このわずかな3年の間にもパレスチナの状況はますます悪化し、希望の光も遠のいていくばかりに見える状況が続いています。圧倒的なイスラエルの軍事的力の下で、なすすべもなく、数千年生きてきた土地を奪われようとしている人たちがいます。昨年、日本に見えたパレスチナ教区の一の母親が、「聖書にあなたの敵を愛しなさい」とあるけれど、それを自分の子どもたちに教えるのはとても難しいことだと話してくれました。 くれかことが頭に残っています。 もし今、イエスがパレスチナに生きていたら、どこに立られるでしょうか。イエスにも圧倒的な武力で自分の権利を主張する側にはなく、抑圧され、小さくされ、貧しくされ、人間性を否定されてきた人々の側に立ち、その人々と共に生きていけるわけにはいきません。私たちがイエスと自らをさらけ出すには、いかに祈りをもつて支えつつ、さまざまな形でパレスチナの人々と共に活動していきたいと思いが。

東京YWCA 梶山順子

DV防止法改正、真の防止とは?

増井さとみ

今年7月に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)改正が行われた。「ドメスティック・バイオレンス(以下DV)」という言葉が使用されるようになって10余年、DVという言葉は市民権を得、理解も深まってきた。今回の改正では、被害者加害者から身を守るための「保護命令」の発令条件に、従来からの「身体的暴力」に加えて、「脅迫行為」いわゆる「言葉の暴力」も含まれた。夫婦間で、こぶしをふりあげることよりも、暴言も犯罪であり、保護命令の対象となり、これに反すれば逮捕されることとなった。 このように法制度が整いつつあるが、「防止」に関してはまだまだ立ち遅れている。それは、私たちの社会において「暴力」が「絶対に行けないもの」ではなく、「条件次第では行使してよいもの」という捉え方をされているかたに思いが。 DVの現場では、「暴力をふるわれるのになぜ逃げないのか」ということは言及されても、「なぜ大切な家族に暴力をふるうのか?」はほとんど問題にされていないように感じる。なぜなら、暴力の行使は相手思い通りに支配するための手段である。そして「家族の中にあつては、妻は夫に従うべき」という概念が社会に根深く浸透しており、「言うことをきかないような悪い妻に暴力をふるうことはいかたかな」という論理が成り立つと思われているからである。言うことをきかない「すなわち」悪いことをしている「者」には「暴力をふるってよい」という概念が社会から消え去らない限り、暴力は容認され続ける。目を世界に転じれば、この概念のもとで「戦争」も行なわれているのだ。本当に「悪いのだろうか?」という者は暴力をふるっても良いのだろうか? 私は「暴力」とは人権侵害であつて、どんな理由があろうと、だからといって暴力をふるわれていい人はこの世に一人もいないと信じている。この原点に立ち返って、今一度「非暴力」を大きく唱えていきたい。(名古屋YWCA会員)



長崎 YWCA

第10回 高校生平和大使 —ジュネーブ国連欧州本部訪問



長崎県の平和団体が98年に始めた「高校生平和大使」の活動は今年10周年を迎えました。8月17日～26日、「高校生平和大使国連訪問10周年記念の旅」に同行しました。今、核廃絶の道のりは厳しく遠く、困難な問題が多い現状ではありますが、被爆地ナガサキからの核兵器廃絶の声と世界平和を願う高校生活動は「平和のシンボル」として評価されています。特に「高校生1万人署名活動」は1年間の現役高校生の活動ですが、これまでのOB・OGを通じて着実に国内外に広がりを見せています。

今回は平和大使も8名となり、韓国・ペルー・ブラジルからの国外大使も参加し、それぞれに国際色豊かに使命を果たしてきました。今年の署名は79224筆で、国連軍縮本部のコリー大使に手渡しました。ニューヨークの国連本部にはこれまでに提出した約35万人の署名が保管されています。ジュネーブの世界YWCA事務所を訪ねての交流会も8年間継続しています。夏季休暇中でしたが8月22日の午後訪問＝写真＝し、総幹事代行のナタリー・フィッシャーさんはじめ14名のYWCAメンバーが対応くださり、その様子は世界YWCAホームページで紹介されました。「微力だけど無力ではない」の言葉を実感した10日間でした。 長崎YWCA 熊江雅子

「南京を考える旅」参加者募集 日程: 12月13日(木) 18日(火)～5日(日) 内容: 基調講演 侵華日軍南京大虐殺遭難同胞記念館見学 および生存者の話を聞く、抗日戦争民間資料館見学グループ デスカンジョウ交流会 観光他 ●参加対象: 大学生以上、ブログラム内容に関心があり、ブログラム終了後もYWCAの活動に参加する意思のある方 ●集合: 上海空港に集合 ●定員: 20名 ●申込締切: 10月30日(火) ●参加になり次第締切り ●共催: 中国YWCA日本YWCA ●問合せ: 申込先: 日本YWCAビジョン2015委員会(事務局) officejapan@ywca.or.jp

- 協力ありがとうございます 賛助費(以下敬称略) 笹原紀子 阿部有三 服部友子 宇都宮芳子 金子幸子 若菜允子 土屋幸子 小野田照代 赤木弘子 須藤道子 兼清和子 廣田容子 正田京子 中島潤子 大久保敦子 仁科謙太郎 仁科弥生 秋元靖子 深田光代 土橋孝子 佐々木真千子 原田早苗 倉戸静子 原信子 内山伸子 三宅文子 笹原愛 辛島道子 奥田道子 江尻礼子 湊島子 松本よを 坂上信子 松岡助子 早田紀子 田中宏子 長場滋子 中山美知子 永吉敬子 佐渡スズ 熊谷麻子 富田朝子 小島陽子 小松美代子 大野穂子 藤原精代 大崎節子 大崎八重子 玉生邦子 由良喜久子 平山孝子 江尻美穂子 ミケレット菜穂子 向後理恵 東郷克世 野呂幸子 長澤雅子 中村シゲ 大野美和子 吉田瑞都 萩尾出穂 福垣美奈子 中橋美鈴 稲垣美奈子 木下由美子 小園桂子

あとがき 暴力、なんじきさまざまな形の暴力があることが、私的暴力、公的暴力 ▼それを前にしてはなす術を知らず、ただ立ちすくんでしまふ▼しかしどんな悪がはびこり厳しい状況の中にあつても、希望の灯は消えないことを、今号記事を書かせてくださったすべての方々に、教えられる▼己にできることを真実に問い歩ますすめたい (R)

中高YWCA 夏のカンファレンス

中高YWCAは、今夏も全国3カ所で夏のカンファレンスを実施し、交流と学びを深めました。



●東北・北海道地区 日時: 7月31日(火)～8月2日(木) 会場: 遺愛女子中学校・高等学校、函館YWCA テーマ: 環境 担当: 遺愛女子中学校・高等学校

環境をテーマに各校が研究発表。なかでも酪農学園大学に隣接する、とわの森三愛高校は、学園内の牛たちのウンチからなんと炭をつくる研究を紹介。できた炭を手にとってみんな香りを確認(笑)。大丈夫、無臭でした。地球環境の現状を映画「不都合な真実」を観て実感。自分たちにできることは何か、考えを分かち合いました。観光エリアでのオリエンテーリングでは、各ポイントでユニークな写真を撮ってくるという課題が与えられ、写真コンテストをしました。

●関東地区

日時: 7月31日(火)～8月2日(木) 会場: 立教学院みすず寮 主題: 「キリストは我らの平和—もはや戦うことを学ばない」 担当校: 横浜英和女学院中学校・高等学校



それは「立ち止まる・見る・学ぶ」ことを通して平和の価値を知り、平和への希求を強める時でした。松代大本営跡では、海を越えて強制徴用された朝鮮人たちの苛酷な労働による地下壕など、上田無言館では、戦没画学生の遺した作品や遺品を見、戦争・国家による暴力の実態を知らされました。関田寛雄先生は戦中・戦後の歩みを語られ、「共に生き生かし合う平和」のために用いるべき知性を示唆されました。53名の生徒たちの心の内に命の水が新たに注ぎ込まれた3日間でした。

●関西地区

日時: 8月1日(水)～3日(金) 会場: グリーンヒルホテル明石 テーマ: 災害とボランティア—阪神淡路大震災における共生と分かち合い 担当校: 啓明学院中学校・高等学校



関西地区カンファレンスは8校より107名の参加者と17名の引率者の参加がありました。共学校となった北陸学院中学校より4名の男子の参加者を初めて迎えました。2日目のフィールドワークでは「人と未来防災センター」を訪問し、阪神淡路大震災の経緯と教訓を学び、いのちの尊さと共に生きることの大切さを体感しました。3日間を通して、災害について学び、私たちがその際にボランティアとしてどのようなことができるのかについて考えました。(文責: 中高YWCA委員会)

特集 Against the 暴力

今月号は、YWCA非暴力週間にちなみ、権力による暴力により心身を虐げられている人々の状況—パレスチナと沖縄—を取り上げました。



パレスチナで起こっていること

分離壁の建設：イスラエルにより2002年に建設が始まったパレスチナとイスラエルを隔てる高さ8メートルの「壁」は、パレスチナの人々の生活を分断し、破壊しています。
家屋破壊：イスラエル抵抗運動に加担したと思われる人物やその周囲の民家が、集団懲罰的にイスラエル軍のブルドーザーによって破壊されています。
移動の制限：主要な町の間にはチェックポイント（軍事検問所）が設けられ、武装したイスラエル兵がパレスチナ人の移動を厳しく制限しており、出勤や通学もままなりません。
土地の没収：分離壁の建設などでパレスチナ人が近づけなくなってしまった所有地は、「荒地」としてイスラエル政府に没収されてしまいます。
軍事侵攻・攻撃：ガザ地区ではイスラエル軍による組織的な侵攻・殺戮が繰り返されています。また、西岸地区の町や難民キャンプでも銃撃による殺傷や不当な拘束などが起こっています。
（資料：大阪YWCAまとめ）

セキュリティは ほんとに はずかしめ？

ベツレヘムに住み、エルサレムで仕事をしているパレスチナ人の一人として、私は、毎日ベツレヘムのチェックポイント（軍事検問所。今や「ターミナル」と呼ばれている）を通過して仕事場へ往復しています。今朝、いつもの通りの慌ただしい通勤途中のことです。私はチェックポイントに向かいました。壁に沿ってフェンスで囲まれた通路を歩き、入口で兵士に許可証を見せ、最初の金属探知扉を抜けて迷路のような通路を通り、いよいよメインのチェックポイントに来ました。毎日のようにここを通過しているのですが、どの服や靴に金属が使われているのか、何をはずしてX線装置の上に置けばよいかわかるようになってきました。私は靴を脱ぎ、財布や、書類で



ベツレヘムの分離壁

沖縄・辺野古の苦悩

沖縄、名護市辺野古にへられようとしている米軍基地は、普天間基地の代替施設として、沖縄の「負担軽減」のための「基地の整理縮小」を名目に、日米政府間で建設が合意した「辺野古」です。しかし、現実には、老朽化した使われなくなった普天間基地を、軍港設備を兼ね備えた最新鋭の基地に作り変える計画です。一刻も早く基地建設工に踏み切りたい日本政府は、環境影響評価法に則って行うべき手続きを一切無視し、米軍基地建設に向けた「現況調査」（事前調査）を強行しています。さらに、徹底した非暴力での、カヌーによる基地建設阻止を訴える行動に対し、国は海自衛隊の掃海母艦を派遣し、武力で威圧するといった事態がおこっています。1日10時間以上も海上に出て、完全非暴力直接行動で、作業員たちに語りかけ、調査機器設置を食い止めたことしているカヌー隊やダイバーは、罪なき人々の殺戮に担担させないでほしいと願う、普通の生活者たちです。連日カヌーに乗っている平良悦美さんの声をお届けします。

好きなわけでもない海上での一日が辛いだけでなく、怒鳴られる疲れは大きいです。それでも、これ以上子どもたちを殺すことになる最新鋭の軍基地を新しく作るわけにはいかなのです。世界一危険な普天間基地の代

種

それは国を遠く離れた地、たった一人の親しい人に裏切られ、偏見と孤独のなかに私はいました。日本など、アジアのどこかの小国としか知られていない頃のことです。街行く人々の目に私の姿など映ってはいない。何か大きな事件が起きたとしても、名を呼んで私を探してくれる人はひとりもいない。そう思うと、ふっと消えてしまいたい。そんな自分の存在の軽さが悲しかった。たまに出会う温かい眼差し、小さな気遣いや言葉が日々をわずかに支えてくれました。そんな時この聖句に出会いました。命が再びしっかりと大地に繋ぎとめられた時でした。今この国の雑踏のなか、職場や学校の教室のなかにも、人々の差別や無視にさらされて凍える想いでいる大人や子ども、そして外国の人たちがいるかもしれない。私たちが、命を喰い尽くすような悲しみを味わっている人がすぐ近くにいるかもしれないと、考えることがあるでしょうか。愛する者たちに、名を呼んでいてくださるお方がおられることを十分に語っているでしょうか。名を呼ばれそれに応える関係のなかで、命は惜しみなく生かされると思つたのか。寺嶋公子（常任委員・東京YWCA会員）

本の紹介 「パレスチナに 行ってきました記」 著者 宮崎祐 発行 せいぶん 定価 1000円＋税

3回当地を訪問した著者は、大阪YWCAの職員。パレスチナ人の友人の女の子から甘いアラブの愛情表現のメッセージをもらってちよつと笑いそうになった一方で感動したり。占領下にあるパレスチナで、普通の日常を獲得するために、パレスチナ人の勇気、そしてエモアのセンスが不可欠である状況を伝えていきます。イラストも楽しい！

Let's try! -パレスチナ関連書籍&映画 【著書】『パレスチナ（新版）』広河隆一 岩波新書 『パレスチナの声、イスラエルの声』土井敏那 岩波書店 『死を生きながら』デイヴィッド・グロスマン みすず書房 『私はパレスチナ人クリスチャン』ミドリ・ラヘブ 日本基督教団出版局 【映画】『ガーダ』（日本/106分/2005年/DVD3990円/レンタルあり） http://ghada.jp/ 『パラダイスノウ』（仏・独・蘭・パレスチナ/2005年/90分） http://www.uplink.co.jp/paradisennow/ 『夢と恐怖のはざま』（パレスチナ/56分/2001年） http://www.movie.dcaj.or.jp/s06/k_content_detail.php?content_id=2744 『アルナの子どもたち』（イスラエル/84分/2004年/DVD3000円） http://www32.ocn.ne.jp/~ccp/

クのブリスです。並んで順番を待ちながら、これが最後のチェック、すぐに出られるワ、と考えていました。それは浅はかな考えでした！ 今日、小さなガラスのブリスの外で一人の兵士が人々を並ばせていました。そして、女性だけの列を作ると、私にその列の最後につくように言いました。彼は私たち4人について来るように命令しました。私たちを従えて彼が行ったのは、これまで見たことも気つきもしなかつた扉の前でした。扉は開いていて、飛行機の扉についているようなハンドルがついていました。すぐに妙な音を立てて、内側から自動的に開いたその扉を見ると、厚みが何と10センチ（約25センチ）もあるではありませんか！ 私たちはまるで舞台のセットのような小部屋に入りました。四方は鉄筋コンクリートの壁と、小さな窓がたまたま立っているのですが、窓は彼女の顔がやっと思える程のサイズです。やがて扉はゆつくりと、しかも自動的に閉まりました。それはまるで潜水艦の中のようでした！ こんな状況に監禁されたら、私のよう閉所恐怖症は言うまでもなく、どんな人でも窒息しそうな気分になりかねません！ 今にも息を失うような感じでした。私は、一生懸命意識を集中させて、すぐに外に出て、新鮮な空気を吸えると思おうとした。およそ2メートル四方の中に私たちは4人ですから、内部はとても暑かつたのです。小窓の外にいる女性兵士は、身分証明書を見せるように言うので、私はたは順番に小窓の所へ行き、彼女は証明書を書き写していました。それから彼女が、何か「服を」というようなことを言ったので、「冗談に違いない」と私たちはお互い顔を見合わせ、不審顔で彼女の方を見ました。残念ながら、彼女は冗談を言ったのではなかつたのです！ 爆発物を身につけていないことが分かるように、



エルサレム（パレスチナ）からベツレヘム（イスラエル）への移動で通る検問所 © Kazuki MANO



せないための時間稼ぎに体を張っています。9月17日にはアメリカでジュゴン裁判の結審があります。勝訴しても拘束性が無いですが、世論への影響があるでしょう。また9月24日にはグリーンピースのエスベランサ号が辺野古を応援に来ます。世界中に状況を発信しなす。カヌーを出す浜にいますと銃を持つ若い兵士たちの訓練を目の前で近々と見ることが出来ます。私たちは加害者になりたくありません。事前調査の作業員たちをも、加害者にさせたくないのです。一緒に生きる仲間でありたいのです。たったこれだけの願いです。主イエスにいただいた尊敬と、私の弱さだけを武器にして、毎日海に出て

「大江岩波裁判」を傍聴して 昨年来 大阪地裁で大江健三郎の「沖縄ノート」の中にある集団自決の記述を巡って裁判が続いている。自決命令を下したとされる旧軍人が著者と版元の岩波書店を訴えたのである。原告は「自決命令は出してない。集団自決は村長の指揮による」と主張する。その傍聴支援の呼びかけが沖縄YWCAから大阪YWCAにあり、傍聴を続けてきた。7月の法廷では初めて証人尋問があった。軍隊が島に入り、島民に何もかも提供させ、さらに住民を防衛隊員として島ぐるみ基地化していく様子が伝わる。女性にはつかまれば強姦されると教え、捕虜になる前に自決せよという旧日本軍の考えは当然住民にも受け継がれる。米軍の上陸直前、当時軍にとって貴重であつたはずの手榴弾が住民に配られている。集団自決に関し、軍の関与を示すあまたの証言があるにも関わらず（現に日本軍が来なかつた島では自決は起こらなかつた、原告側弁護士は自決当夜の隊長命令の有無にのみ論点を帰そうとする。裁判の中で見えてくる沖縄戦の実態は、軍が国民を守るといふのは幻想で、軍は住民を犠牲にして国の大義を守るということである。本の中で大江さんは本土沖縄の関係を痛みをもて問うている。集団自決の記述はその一部にすぎない。沖縄はすべて独自の歴史と文化を持ち、武器を持たない平和な王国であつた。だが、島津藩の琉球支配以降、本土利用され続け、明治政府に沖縄県とされ、そして唯、地上戦の舞台に。戦後は本土と切り離され、米軍基地の最前線に立たされてきた。本土復帰後35年たった今も基地の75%を引き受けている。それら沖縄の多大な犠牲の上に本土の繁栄は築かれてきた。本土の私たちはどのくらい沖縄の痛みを共有できているだろうか。

濟の問題ではありません。基地が生活の潤いに役立つなら、沖縄は世界一金持ちになっているはず。主よ、と毎日辺野古への車の中で叫んでいます。希望を見失つことがないようにお守りくださいと祈っています。命の根拠である私たちの主が、先立つて下さっているのを知っていますから、大丈夫、辛抱できます。そして作業を進めさせていただきます。悦美（73歳より）

この3月、文部科学省は高校歴史教科書の集団自決の記述から軍の関与を削除すべきとの教科書検定を出した。その根拠が「現在のこの件は係争中で結論が出ていない」というもの。この裁判が軍隊の実態を隠すことに利用されたのか。これを受け、沖縄では体験者が証言を始め、自治体は全県あげて抗議の決議をして検定撤回を求めている。本土はどこまで沖縄にたいして体験を強いるのか。最近では戦争の記憶が薄れます。ますます米軍と結びついて武力行使が可能な国と加速しつつある日本。このようなときだからこそ、沖縄の痛みにつながりこの裁判の結果を見届けていきたい。大阪YWCA 白井邦子

My Story Her Story



私は96年前に大阪の船場に生まれ育ち、神戸にあった大学を卒業後は、六甲の山々を仰ぐ阪神間で過ごしました。昭和11年一家は東京に移りました。友人もない折、東京YWCAの幹事であった大学の先輩塩野幸子さんを駿河台に訪ねました。布で小さな人形を作る講習会に参加する予定のところ「講習に出ないで私の担当の青年部の仕事を手伝って!」と言われ、よく内容も分からないままボランティアとして関わることになりました。私とは同じ年代のグループで、リーダーシップをとる方は、実に積極的にグループを展開しておられました。また夏休みには小学生高学年の集まりもあり、朝は駿河台で、午後は国領まで出かけ、多摩川で泳いだ記憶があります。交通の激しさもないのどかな時代でした。やがて職員として働いた頃、世相は激しく動き、婦人団体の共催で農村での青年た

東京YWCA 鳴海静子

この3月、文部科学省は高校歴史教科書の集団自決の記述から軍の関与を削除すべきとの教科書検定を出した。その根拠が「現在のこの件は係争中で結論が出ていない」というもの。この裁判が軍隊の実態を隠すことに利用されたのか。これを受け、沖縄では体験者が証言を始め、自治体は全県あげて抗議の決議をして検定撤回を求めている。本土はどこまで沖縄にたいして体験を強いるのか。最近では戦争の記憶が薄れます。ますます米軍と結びついて武力行使が可能な国と加速しつつある日本。このようなときだからこそ、沖縄の痛みにつながりこの裁判の結果を見届けていきたい。大阪YWCA 白井邦子